

## 革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

## 鳥取県革新懇ニュース

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)  
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

No.47  
2015年  
6月10日

## 5・3 憲法集会



平和への思いを込めて「はと風船」をとばす参加者 5月3日、鳥取市

## 鳥取市で「平和の鳥フェスティバル」

鳥取市九条の会などで行われる「とっとり9条の会はと風船実行委員会」は5月3日、鳥取市の「わらべ夢ひろば」で「平和の鳥フェスティバル」を開催しました。親子連れなど約350人が参加し、「平和のメッセージカード」を付けた「はと風船」1千個を、いっせいに大空に放ちました。

実行委員長の長本喜夫さんは、安倍政権が憲法9条を変えて国防軍を持とうとしていると指摘し、「憲法を守るために平和のハトを飛ばそう」とあいさつしました。

集会には小林節慶応大学名誉教授、志位和夫日本共産党委員長、映画監督の山田洋次さん、弁護士の宇都宮健児さんなどがメッセージを寄せました。

この取り組みは2008年から毎年開催されています。

# 「憲法を守ろう！」の 思いをひとつに

## 米子九条の会が学習講演会

米子九条の会は5月3日、鳥取大学地域学部教授の藤田安一氏を講師に、米子市で「戦後70年記念講演会」を開催しました。

藤田氏は、ドイツが自らの戦争犯罪の事実を認め、歴史の改ざんを許さないのに比べ、安倍政権は日本の戦争を侵略戦争と認めず、「戦後レジームの転換」と称して、戦争への痛切な反省から生まれた日本国憲法を変えようとしていると警告し、安倍政権のめざす方向について、第一次内閣で教育基本法改悪、改憲手続き法制化、第二次内閣で秘密保護法制化、国家安全保障会議設置、集団的自衛権行使容認、第三次内閣で安保法制の整備をして、米国とともに戦争する国づくりすすめ、派遣法改悪、残業代ゼロ法などで「世界一大企業が活動しやすい国」をすすめていると指摘しました。

戦争への道を阻止するために国民の運動が必要だが、9条の会、反原発、反米軍基地建設、言論統制に反対する運動など国民の運動が広がっており、力を合わせて安倍政権とたたかうことが重要だと強調しました。



藤田教授の講演を聴く参加者 5月3日、米子市

# 辺野古新基地NO!

## 沖縄県民大会に3万5千人



いっせいに「辺野古新基地NO」のパネルを掲げる集会参加者 5月17日、那覇市

5月17日に開催された名護市辺野古への米軍新基地建設に反対する「戦後70年 止めよう辺野古新基地建設! 沖縄県民大会」への参加を兼ねて、17日から19日まで県革新懇の呼びかけで「沖縄平和ツアー」が行われ、17人が参加しました。参加者の報告を掲載します。

沖縄ほど明と暗が鮮明に感じられる土地はない。那覇空港に間もなく着陸するという機内アナウンスが流れると、機上から見る美しい色をした海岸線に乗客の中から、「わあ

「きれいな」と歓声が一斉にあがる。機内から外にでると、肌を刺す強い日差しに、沖縄に来た実感が湧いてくる。そしてこれから向かうセルラースタジアム「辺野古新基地

反対沖縄県民大会」での人々の熱気を予想させた。去年、11月15日の知事選で、辺野古新基地建設反対を公約にした翁長候補の演説に、県庁前の交差点には7500人もの聴衆が集会し、異様な熱気が那覇の夜を圧していた。翁長候補の「沖縄への米軍基地集中は、沖縄への差別であり、未来の子供たちのためにも許してはならない」とする演説に、「そうだ!」と言う同調する声と拍手、口笛が鳴り響いた。私はこの現場にいて、翁長候補の知事選勝利を確信した。あれから半年、セルラースタジアム周辺には、知事選以上の異様な熱気が立ち込めていた。何台もの右翼の街宣車が、スタジアムへ向かい、「売国奴! 恥を知れ」とがなりたて、それを監視するヘルメットとプロテクターで完全装備した機動隊の部隊や警察官などで、まさに一触即発といった緊張した状況を醸し出していた。

スタジアム周辺には、スタジアムに入場できなかった多くの人々が県民大会の開催を、場外テレビを覗いて待っている。私たち鳥取組は、芝生の外野席に入る余裕があるかどうかで、そちらに向かう。強烈な日差しの下、

多くの聴衆がじつと何か耐えるように座っている。私たちも、それぞれが空地を見つけて場についた。流れ出る汗が着ている服を濡らしていく。上空には何機もの取材ヘリが飛んでいるのが見える。真正面には、スタジアムの中央に設置された演台の背と、内野席の何万人という聴衆の姿が見え、この県民大会の規模の大きさを実感させられる。周りにいる人々を目を向けると、祖父父母の孫の数世代の家族連れで参加している方の姿が目につき、沖縄の血族を大切にしている風習を垣間みる。大会主催者の演説が始まると、外野席にも途切れ途切れに力強い訴えの音が伝わってき、それに賛同する聴衆の地鳴りのような声や口笛がスタジアムを震わせていく。私は、この歴史的な場



声援に応える翁長県知事をはじめ国会議員ら



面に臨み、一步でも演台に近づきたい衝動に駆られ、カメラを手にして動きだしていた。内野席は立錐の余地もないほどに人々が壁を作っていたが、その人の波を掻き分けて演台の間際に立った。その場から振り返り内野席を埋める何万という人々と対面すると、体の芯から身震いすほどに湧きあがってくる興奮を必死で抑えながら、カメラのシャッターをきりまくっていた。

スタジアムの人々が着る青色のTシャツが海面のように波立つ様は、まさに辺野古の美しい海と一体化し、反基地闘争のシンボルカラーとなっていた。私は、この光景を見て、1986年にフィリピンで起こった反マルコス大統領に対する市民



革命を思い浮かべた。人々はアキノ大統領候補を支えるために黄色のTシャツを着て街頭で運動を開始した。そのため「黄色の革命」と称され、アメリカもフィリピン国民の民意を無視することができず、マルコス大統領を退陣させた。今回、その再現となりかねない沖縄における「青色の革命」の動向を、アメリカ政府も注視しているに違いない。

演壇には、沖縄を代表する人々、本土からの著名な作家やジャーナリストの方々の演説が続ぎ、そして最後に翁長知事の登壇でスタジアムは最高潮の盛り上がりを見せた。聴衆の真剣な眼差しが知事の方へ注がれ、知事の一言一句を聴き逃さないという雰囲気、場内は一瞬、水を打ったように



静まりかえった。知事の発したしまくとうばは、何を意味する言葉なのかさっぱり分からなかったが、沖縄の人々の心に訴えかけるには絶大の効果があった。沖縄の人々が今まで本土政府やアメリカ政府より受けてきた当事者無視の差別的、強圧的な政策に対する憤怒を、知事の言葉は余すことなく県民の思いを代弁していた。3万5000人の聴衆は知事の発する言葉によって「ひとつの大きな家族」となったかのように共鳴しあった。

今の日本の政治を大きく変革しようとする潮流が沖縄から巻き起こった要因を考察するならば、沖縄におけるジャーナリズムの役割を考えないわけにはいかない。特に地元の新聞社である沖縄タイムスと琉球新報の報道姿勢に私は注目する。こ



辺野古の闘いを学び交流する参加者 5月17日、名護共同センター

のセララスタジアムにおいても、この2社の対応は素早く、インクが乾ききらない号外を聴衆に配布していた。私もそれを見て、スタジアムに集った人々が3万5000人と知った。リアルタイムに県民が知りたがっている情報を伝えることによって、県民の問題に対する自己決定権の幅を大きくすることに貢献していた。翌日の辺野古での漁港やキャンプシユワブにおけるテント村におい

ても、腕章を付けて取材する若い記者たちの熱心な姿を見て感銘を覚えた。こうした彼らの活動が沖縄での民衆運動に確固たる方向性を与えてきた。県民一人一人に何が問題なのか正確な情報を提起することで、県民の自主性を促してきたといえる。本土の大手報道機関が、政府の顔色を窺って情報操作するのと違い、沖縄における報道には信頼性が担保されている。名護の共同センターの



5月19日、南部戦跡を訪ね、鳥取県の慰霊塔「因伯の塔」で慰霊の祈りを捧げる参加者

所長さんから聴いた「沖縄の闘争は鈍角な戦いで」という言葉は、闘争の主人公たる県民が与えられた情報をよく取捨選択し、時間をかけて熟考したうえで活動の結果だと確信する。だが、やがて鈍角な闘争も、沖縄から全世界へと向かって、しつかりとした支援網が広がっていくにしたがい、先鋭な闘争と変貌していくに違いない。その変貌の鍵を握っているものこそ、今後の沖縄におけるジャーナリズムの活動にあると確信する。

(米子市 森田守)



集会後デモ行進する参加者 5月1日、鳥取市

## 第86回メーデー集会

「8時間労働を守れ」「憲法を生かそう」  
 5月1日、第86回メーデー鳥取県集会が開催されました。安倍政権による「戦争する国づくり」「世界で一番企業が活動しやすい国づくり」とのたまたか山場を迎えるなか、鳥取市と米子市の2会場で約640人が参加しました。

鳥取県会は「とりぎん文化会館」に約500人が参加。田中暁実行委員長(鳥取県労連議長)が、「戦後

以来の大改革」をすすめる安倍暴走政治を糾弾し、労働者派遣法と労働基準法の改悪阻止、「戦争立法」反対の取り組み強化を呼びかけました。続いて弁護士の本光寿氏と、「明るい民主

## NPTニューヨーク行動 に行ってきました

私は4月26日、国連NPT(核不拡散条約)再検討会議の前日に行われた「核兵器のない世界のための国際行動デー」に参加してきました。日本から2千人を超す人と地元アメリカの反戦家、各国からの参加者合わせて1万人がニューヨークのマンハッタンを大パレード、核廃絶をアピール。

集まった署名は約800万筆、アンゲラ・ケイン国連軍縮上級代表とタウス・フェルーキNPT議長に手渡されました。議長は「この署名は、軍縮は各国政府だけでなく、人々の行動にかかっている。そして核保有国に優先課題であることを知らせることになる」とスピーチ。NPT参加159カ国が「核兵器の人道上的影響に関する共同声明」に賛同、核保有国(アメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシア)は賛同していません。唯一の被爆国日本の政府には、一日も早い核兵器廃絶に向けての先頭に立った行動を起こしてもらいたいものです。

新日本婦人の会鳥取支部事務局長  
 柳 明子

NPTニューヨーク行動には、他にも鳥取医療生協より3名、鳥取県原爆被害者団体協議会より1名が参加されました。



鳥取医療生協の参加者と一緒(後ろで両手を広げているのが私です)

政をつくる会」の候補者として県知事選をたたかった日本共産党鳥取県委員会書記長の岩永尚之氏が連帯と激励の挨拶を行いました。

集会では、持ち寄ったプラカードやデコレーションの披露と審査を行い、メーデー宣言を採択。参加者は、「憲法を守るう」「長時間労働をなくせ」などと唱和しながら若桜街道を鳥取駅前までデモ行進しました。

同日には、米子市でもメーデー集会が開催され、140名が参加しました。



許すな！戦争する国づくり まもれ！憲法と平和、いのちと暮らし

### STOP安倍政権！ 6.13鳥取大行動

6月13日(土)13:30～集会

とりぎん文化会館第1会議室

14:30～パレード(鳥取駅前まで)

終了後鳥取駅前で宣伝行動

### 戦争法案許すな！STOP安倍政権！

#### 6.13鳥取県西部集会

6月13日(土)15:00～ 米子市文化ホール前広場